

研究実施のお知らせ

2022年5月29日 ver.1.0

研究課題名

緑内障患者における認知機能スコア分布

研究の対象となる方

2020年3月から2022年4月の間に島根大学医学部附属病院を受診しMini-Cogによる認知機能検査を受けられた方

研究の目的・意義

緑内障は進行性の視神経萎縮を来たす疾患で、視野欠損や視力低下の原因となります。緑内障は多くの場合加齢とともに発症します。認知機能低下も加齢と共に発症しますが、緑内障患者さんの中にどの程度認知機能低下の方がいらっしゃるか不明です。Mini-Cog 質問票は、言葉の記憶力と時計描画からなる、認知機能の簡易評価法（5点満点、2点以下が認知機能低下疑い）です。認知機能の低下は、視野検査の信頼性や点眼薬物治療を上手に行えるかどうかに影響する可能性があります。当院では、2020年3月から緑内障患者さんに点眼指導を行う際に、Mini-Cog を用いた認知機能検査を行っています。本研究では、眼科外来を受診された緑内障患者における Mini-Cog スコア分布をあきらかにすることを目的とします。加えて、Mini-Cog スコアと視野検査の信頼性指標の関係、薬剤処方本数との関係を検討します。

本研究により緑内障患者における認知機能低下の頻度・程度とそれらの検査・薬物治療への影響が明らかとなれば、検査法の選択や結果の解釈、あるいは、薬物治療・手術治療の選択などについて判断を行う際の判断材料を提供できます。

研究の方法

対象となる患者さんの電子カルテから年齢、性、左右眼、喫煙歴、血圧、脈拍、全身及び眼科の既往歴、眼科検査結果（視力、眼圧、前眼部所見、眼底所見、視野検査結果）、眼科薬剤処方、Mini-Cog スコアを調査します。

データはエクセルのデータシートに記載して集計します。全てのデータは名前とカルテ番号を削除して扱います。収集したデータは、島根大学医学部眼科学講座内の外部から容易にアクセスできないPCに保管します。PCにはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。

研究に関するデータ及び関連資料（研究に関する手続き資料を含む）は、研究の終了を報告してから少なくとも5年間保管し、その後消去します。

研究の結果は、眼科関連の学術誌および学会で公表します。

本研究に関する利益相反は、島根大学医学部等臨床研究利益相反マネジメント委員会が管理します。

研究の期間

2022年7月（研究許可後）～2025年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院眼科 教授・谷戸正樹

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

利用停止のお申し出は、いつでも可能です。ただし、結果の公表を行った後は、情報を削除することができず、ご要望に沿えません。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部眼科学講座・教授 谷戸正樹

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2284